

2022.01.02. 不健康な時代に、靈的に健康であること

へブル人への手紙 13 章 1 節～7 節

JD ファラグ牧師

現在、へブル人への手紙を学んでいます。今日は最終章の 13 章で、箇所は 1 節から 7 節です。ここにいる皆さんで可能な方はご起立ください。そうでなければ座ったままで構いません。私が読みますので、ついてきてください。へブル人への手紙第 13 章 1 節から、聖霊によって手紙の著者が書いています。

へブル 13

1 兄弟愛をいつも持っていなさい。

2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いたちをもてなしました。

3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。

4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。

5 金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。

6 ですから、私たちは確信をもって言います。「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」

7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。

これはかなり自明ですね。お祈りして終わってもいいでしょうか？ 祈りましょう。

天にいます父よ、あなたの御言葉と、私に教える特権を与えてくださったことを心から感謝します。しかし、主よ、聖霊が私たちの教師であり、私たちの理解の目を開いてくださる導き手となることを切に必要としています。なぜなら、聖霊がそうしてくださらなければ、今日、あなたの御言葉と一緒に過ごす時間は無駄になってしまいます。そのようなことを望んでいる人は、ここには誰もいないと思います。私たちの思いが迷わないように、あなただけに注意を向けさせていただきたいのです。そして、あなたが私たちの注意を引き、保ってくださいたら、主よ、あなたが私たちの全神経を集中させてくださるとき、どうか、どうか、どうか...私たちの人生に、あなたが語りかけてくださることを、切実に願っています。

今朝、私たちが前にしているこの御言葉は、こんにちの私たちの状況にふさわしいもので、私たちはこれを聞き、耳を傾ける必要があります。主よ、お語りください、あなたのしもべたちは聞いております。イエスの御名によって祈ります、アーメン、アーメン。

御着席ください。どうもありがとうございました。それでは今日は、靈的に健康であることについてお話ししたいと思います。私は、健康という観点から、現代を生きる私たちにとって、非常に共通したテーマを扱っていると痛感しています。しかし、私が話しているのは、「靈的な健康」についてです。私がお話ししたいのは、こんにちの世界で起こっているすべてのことを考えると、靈的な意味で非常に不健康な時代にあって、靈的に健康であることについてです。この手紙の終わりに近づくと、へブ

ル人への手紙の著者は、私が「スタッカートのような」と呼ぶ勧告を始めます。私が言っている意味がわかりますか？ つまり、速射砲のように、スタッカートのように、次から次へと忠告の言葉が出てくるのです。最初は、それらはほとんど繋がりが無いように思えます。ほとんど混乱していて、無関係なようです。しかし、実際には、これらの節とそれに続く節にも、共通するものがあります。私が最初の7節だけを選んだのは、この13章の最初の7節に多くのことが書かれているからです。そして、これらの勧告に共通しているのは、霊的な生体反応について語っていることです。医者に行くと、健康状態を診断されますよね。医者は、血圧、心拍などのバイタルサイン（生命兆候）を測定し、あなたがどういう状態か見るでしょう。現代は肉体的な健康に関しては、医学的に類を見ない時代に生きていますが、しかし、霊的健康にはほとんど注意が払われていません。ですから、今日のこの一節は、私が祈ったように、とてもぴったりのものです。なぜなら、私たちの霊的な健康について、特に、健康なクリスチャンとはどのようなものかについて語っているからです。また、健康な教会とはどのようなものか、ということも付け加えておきます。これらは、霊的に健康なクリスチャン生活の指標となるものです。1つ目は、1節にあります。これは当たり前のことをしっかりと把握するべきですが、悲しいことにそうではありません。クリスチャンや教会が、霊的に健康であるしるしは、「お互いを愛し続けている」ことです。クリスチャンや教会が、霊的に健康であるしるしは、「お互いを愛し続けている」ことです。ここで著者は、兄弟愛から始めています。これは、ギリシャ語新約聖書の原語で使われている言葉です。ギリシャ語の「フィリア」という言葉ですが、これは英語の、兄弟愛の語源です。英語では、愛を表す言葉はひとつしかありませんよね。しかし、ギリシャ語には四つの言葉があります。「フィリア」は兄弟愛を意味します。「エロス」は、英語のエロティックの語源で、肉体的・性的な愛のことです。そして「アガペー」は無条件の愛です。そして、四つ目は「ストルゲ」。これは「自然な愛情」と訳されることが多いです。子から親へ、親から子への愛。だから、もしあなたがギリシャ人で、ギリシャ語を話しているなら、「私は子どもたちを愛しています」は、私は子たちをストルゲし、妻をエロスし、兄弟姉妹をフィリアし、神は私をアガペーすると言うのです。英語では、「神は私を愛され、私は妻を愛し、私はチーズケーキとヒマワリの種と、ピスタチオを愛しています…」、スパイシーなアヒポケを忘れないで。私はスパイシー・アヒポケを愛しています。でも、妻やキリストの兄弟姉妹を愛するのと同じではありません。ここでヘブル人への手紙の著者が語っているのは、兄弟愛/フィリア、フィラデルフィア/兄弟愛の町のことです。これは、私たちがお互いに抱く愛のことです。そして、皆さんが理解しているかどうかはわかりませんが、彼は「互いに愛し合う必要がある！」とは言っていないことに注目してください。そうではなく、「ただ、お互いに愛し続けなさい」と言っているのです。つまり、彼らはすでにお互いに愛し合っていたのです。だから、今やっていることを続けてくださいということです。すべてが、ここから始まるのです。実際、私たちがこれから目にするすべてのものは兄弟愛から湧き出てくるものであり、それから、他のすべてのことにつながっていくからなのです。私にとっては、イエス・キリストを信じ、従う者の霊的な健康に関する、リトマス試験紙なのです。実際、イエスは、

「互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」とおっしゃいました。(ヨハネ 13:35)

それが、人々が知る方法です。あなたの教会の規模や聖書の大きさ、車の後ろに貼ってある物では判らないでしょう。それは人々が知る方法ではありません。実際、私が車の後ろに何も貼らないのは、人に知られたくない…いや、何でもありません。その話はまた別の機会にしましょう。あなたがイエスの弟子

であり、イエスを信じる者であり、イエスに従う者であることをどうやって知ることができるでしょうか？ それは、あなたの互いに愛し合う愛によるのです。そこから始まるのです。そして、それが健康なクリスチャンのしるしであり、健康な教会の証なのです。いつも言っていることですが、大げさではありません。またか、と思わないでほしいと願います。これは本当のことで、私の心からの言葉です。この素晴らしい、愛に満ちた教会の牧師でなかったとしても、私はこの教会に通ったでしょう。あなた方は本物です。牧師の心を祝福するのは、訪問者がこう言う時です。「ああ、私が正面玄関から入ると...」私は、「ええ...、どうした？」と....そして、彼らは次のような趣旨のことを言います。「みんなが私を愛してくれた。そして、それは本物の愛だった。」聖霊の実というのはそういうものです。偽ることはできません。やっても人は見抜きます。表面的な、偽物の、丁寧な、礼儀正しく、歓迎挨拶のような。

「私たちの愛溢れる教会へようこそ。あなたはどこから来られましたか？」ああ、これは本物ではないな、という感じですよ。いや、わかるでしょう。プラスチック製の果物のようなものです。見た目は本物でも、いざ噛んでみると、本物かどうかすぐにわかってしまうのです。そして、これが本物の愛です。この教会は...繰り返しになりますが、私は感謝してもしきれません。あなたがたのおかげで、牧師の働きがこんなにも喜びと特権に満ちたものになりました。私は、この愛に満ちた教会の牧師であることをとても光榮に思っています。特に今は、私が今言ったようなことを本気で言える牧師はほとんどいません。悲しいことですが....これこそが、健康なクリスチャン、健康な教会の一つの証です。二つ目に移る前に一言だけ言わせてください。今やっていることを続けてください。これからも、お互いに愛し合ってください。時には励ましてあげて、そして笑顔で、笑顔は大きな力になりますよ。私は意地悪な顔をしているので、もっと笑顔にならないといけませんね。妻はいつも「笑顔を見せて」と言います。私は「努力はしているんだけどね」と応えます。私はこの顔で生まれてきました。どうしようもないですね。笑顔が大きな力になります。この、神の教会の正面玄関に入ってきた人の人生に何が起こっているのか、あなたにはわかりません。特に今、世界で起こっているすべてのことについて、その人がどんなに苦しんでいるのかはわかりません。ここは、安全な場所であり、愛のある場所であり、人々が来て、励まされ、愛され、受け入れられるような、あらゆる意味での聖域でなければなりません。さて、二つ目に移りましょう。七つあるので、時計を見ないでください。2 節では、霊的に健康なクリスチャンや教会の二つ目のしるしとして、「人をもてなす」ことが挙げられています。これにはいくつかの興味深い理由がありますが、特に重要なのは、当時の文化的状況は、現代の私たちのものとは違っていたということです。人々が泊まる宿はありましたが、安全ではありませんでした。町の外から来た旅行者は、キリストの兄弟姉妹に頼って彼らの家に行き、もてなしと、泊まる場所を提供してもらったのです。しかし、これにはいくつかの問題点があり、その問題は初代教会全体に蔓延していました。実際、この問題がどれほど深刻だったかを記録している教会史家もいます。兄弟姉妹のもてなしの心を利用する偽教師たちがいたのです。なので、彼らには見極めが必要だったのです。しかし、極端に言えば、慎重になりすぎ、もてなさないということもあります。ここでは、彼らが知らないうちに、御使いが人間の姿になると。ロトのことを考えてください、気づかずに、御使いをもてなししていたのです。つまり、見極めが必要だったということです。私たちは実際に、言うのをためらいますが、私たちは....何と云えばいいのでしょうか...助けてください、聖霊様。ある人がこの教会に入ってきたのですが、このことが原因で、教会から追い出されなければなりません。ところで、私たちは皆さんのお祈りを切望しています。もし誰かがドアから入ってきたら、私たちは十分見極めなければなりません。というのも、私たちは教

会として、とても寛容に、包み込むような歓迎をしているからです。しかし、それを利用して付け入る狼がいるのです。そして、知っておいてほしいことがあります。まず、この教会の指導者やスタッフ、長老たちについてですが、彼らは猛烈にあなたがたを守ってくれます。そして、私もそうです。この教会を脅かすような人物が正面玄関から入ってきたとしても、そう長くは居られないでしょうね、たぶん 20 秒くらいです。私が出れば、15 秒くらいでしょうか。彼らは脅威となり、害となり、この神の教会に危険をもたらすので、ここから出なければならぬのです。私たちは、わからないからこそ、見極めなければなりません。もしかしたら、御使いかもしれません。御使いを、偽使徒や羊の皮をかぶった狼だと思って教会から追い出すのはまずいですよね。いや、受け入れてください。あなたは分からないのですから。もう 2 年以上前になりますが、ある人がいました。ホームレスの人が入ってきたんですが、これがまた臭いのなんの。マークとシャロンが彼に服をあげたのだと思います。2 階にシャワーがあるので、彼にシャワーを浴びさせ、食べ物や服を用意しました。私たちはよくわからなかったのです。そして突然、彼は教会の女性たちにとっても不適切なことを言い始めたのです。それで、私たちは...私が何をしたのかは、皆さんが私を見る目が変わるので言いません。ただ、言っておきたいのは、彼が直ちに、物理的に、敷地内から確実に追い出されたことです。なぜなら、あれは食い尽くす捕食者であり、狼であり、脅威であり、ここは安全な場所でなければならないからです。繰り返しになりますが、私たちには見極めが必要なので、皆さんの祈りが必要です。もし、その人が御使いだったとしたらどうします？ 私たちは恵みの側に立ちたいと思っています。しかし、十分注意を怠らないようにしたいものです。そんなことが起きていたんです。健康な教会の証の一つは、そう、「もてなしの心」です。しかし、「もてなし」という名によって、識別力を捨ててしまっただけではありません。

三番目、3 節、これは大事なことです。その理由は、すぐにわかります。それは「牢につながれている人々を思いやる」ことです。当時の刑務所は、現代のようなものではなかったことを理解する必要があります。ジムもないし、スターバックスなどありませんでした。否定したり、見下しているわけでもありません。つまり、ただ監禁されたままなのです。あの時代に刑務所に入っていたら、そこに放置されて死んでいったのです。食事も与えられませんでした。服も着せてもらえなかった、何も。もしあなたが刑務所の中で生き延びたとしたら、それは愛する人たちが衣食住すべてを運んできてくれたからです。使徒パウロのことです。彼が自分の外套を求めているときのことを覚えていますか？ とても寒かったのです。彼が神の御言葉の巻物を求めたときのことです。彼は投獄されていましたが、彼に食べ物を与えたり、助けたり、支えたりしなければ、多くの人がそうであったように、彼はただ死ぬまで放置されていたでしょう。ヘブル人への手紙 13 章が終わったら、次はヤコブの手紙になります。ヤコブは、靈的に健康なクリスチャンについて、不明瞭さは全くなく、はっきりとした言葉で述べています。それは、やもめ、孤児、囚人の世話をすることに現れると。(ヤコブ 1:27 参照)

それがキリスト教です。それが靈的に健康なキリスト教です。そのような姿なのです。

四番目、これは大物です。我慢して聞いてください。「結婚生活の純粋さを保つ」ここで重要なことは、ヘブル人への手紙の著者が原語で使っている、性的不道徳を表す言葉が「ポルネイア」でありこれが英語の「ポルノグラフィ」の語源になっているということです。性的に罪のあるもの、不道徳なもの、性的不道徳と定義されています。そして、ここで著者は、「結婚の寝床が汚されないように」と強く勧めています。「神は性的に不道徳な者をさばかれる」とまで言い切っています。実際、真実は、性的不道徳の結果、荒廃し、破壊された人生や結婚生活、そして教会を見れば明らかです。これは重大です。

ところで、敵もそれを知っています。だからこそ、戦略的に狙ってくるのです。あなたが知っているかどうかはわかりませんが、サタンはあなたの結婚を嫌っています。理由は分かりますよね？ それは、結婚が、クリスチャンの結婚が象徴するもののゆえです。それは、私たちの花婿であるイエス・キリストとの関係の縮図です。家族全体が天の父との関係の縮図であり、私たちはキリストにある兄弟（Sibling）なのです。このように言うべきではないかもしれませんが、多くのことを説明していますよね。「兄弟（Sibling）喧嘩」、当然です。私は、「兄弟姉妹（brothers and sisters）」が好きです、その言い方のほうが柔らかいです。私たちはキリストにある兄弟姉妹（Sibling）です。神は私たちの天の父です。イエスは私たちの花婿であり、私たちはキリストの花嫁なのです。すべては、主と私たちの関係の縮図なのです。だから、サタンはそれを嫌うのです。だから彼はクリスチャンの結婚を憎むのです。だからこそ、クリスチャンの結婚をターゲットにしているのです。イエスが「神は離婚を憎む」と言われるとき、神が離婚した人を憎むのではないことを覚えておいてください。主が離婚を嫌うのは、離婚が、離婚した人に与える影響をご存じだからです。こんにちの教会で、離婚が、赦されない罪のように扱われているのは、悲しい風潮だと思います。まるで（不義の罰として付けられる）緋文字のように。いいえ、神は恵み深い神であり、このような非常にデリケートなテーマにでも、神の恵みは十分なのです。聞いてください。サタンは、このことになると、特に男性や夫の人生において、罪悪感や非難を増幅させるでしょうが、神は恵み深い神であられるので、そんな必要はありません。神は赦されるお方です。赦されない罪はなく、性的な罪を犯しても、それを告白し、悔い改めれば、憐れみがあるのです。箴言 28 章 13 節だと思うのですが、間違っているかもしれませんが。

「自分の背きを隠す者は成功しない。告白して捨てる者はあわれみを受ける。」

第一ヨハネ 1:9 は、全員ではないにしても、ほとんどの人にとって馴染みのある言葉でしょう。これは、親愛を込めてクリスチャンの石鹸と呼ばれています。

「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」

イエス・キリストの清めの血は強力です。その血は強力で、どんな罪も、あえて言えば、特に、この罪をも清めることができます。最後にもうひとつ、これも重要なことだと思います。このような悪感と罪責感、特に男性の人生においては、サタンが男性を思いのままにしてしまうほどです。必要なのは、その罪が贖われた、十字架にたどり着くことなのです。

「ああ、でも牧師さん…私はそれをやってしまって、罪を犯し続けているんです。」神が驚いておられると思いますか？「ええ、でも誓いも立てました。神に二度としない！と約束して、しかしまたやってしまいました…」サタンがそこにおいて、「私なら戻らない」と言っています。「神に、二度とやらない言ったのに、お前はまたやってしまった。」「私がお前だったら、戻って赦してもらおうとは思わない。ほとぼりが冷めるまでしばらく身を潜めているだろう。」サタンが何をしているか知っていますか？彼はそれをするので、一定の成功を収めています。サタンは、あなたを主から遠ざけています。それが彼の唯一の目的です。あなたがキリストのもとに来ると、敵の戦略は変わります。いいですか、あなたが救われてキリストのもとに来る前は、敵は、あなたがキリストに救われることを妨害するために、全力を注いでいるのです。そして、あなたがキリストのもとに来て救われると、「よし、作戦変更だ！今から戦略を変えよう。」となります。「彼は、キリストのもとに行って救われた、今度は、彼を主から遠ざけよう。」と。赦しと清めを用意されているお方から、私たちを遠ざけてしまうのです。敵はそれ

を知っており、私たちに知られたくないのです。なぜなら、私たちを十字架から遠ざけ、罪の告白から遠ざけることができる限り、敵は私たちを捕え続けられるからです。「お前はもう終わりだ。ゲームオーバー、お前は失格だ。主に仕えることなんて、考えるな。驚いたことに、教会に来て隣席の人は、お前が何をしていたか知っている。」隣席の人を見ないでくださいね。あなたも聞いたことがあるでしょう？ それがサタンです。サタンはいつも非難し、責めます。サタンは兄弟の告発者なのです。サタンは嘘の父であり、あなたは彼の嘘を信じているのです。サタンは混乱の生みの親なのです。あなたはこの分野で勝利の中を歩んでいません。そして、サタンはあなたを打ちのめし、打ちのめし、打ちのめし続けるのです。不思議ではありません。そして最後は、御言葉も読まなくなります。聖書はあなたを罪から遠ざけ、罪はあなたを聖書から遠ざけると言われています。あなたはそれに気付いたことがありますか？ 考えてみてください。よく考えてみてください。あなたを誘惑し始めた最初の段階から、それがサタンの意図した目的であることに気づきましたか？ そして、それはたいてい次のようなものです。「そうだね、いつでも赦しを請うことができるからね。」「誘惑されることは罪ではない」とヤコブは言っていますが、これはヤコブの手紙でもう一度学びます。その誘惑に、屈したときに罪になるのです。そして、一旦罪を犯すと、なんと、サタンはすぐそばにいるのです。今、サタンはやり方を変えています。「またやったのか！信じられない！」「ああ、わからない、理解不能だ。」主は、両手を広げて待っておられるのに、サタンは、神がバットを持って待っているという絵を、あなたのクリスチャン人生に描いているのです。「今そのバットを食らうんだぜ？ 私なら距離を置く。」いいえ、告白するのです。罪を告白することの意味を整理してみましょう。あなたは罪を罪として告白しているのです。つまり、罪を罪と呼ぶのです。初歩的なことだと思われるかもしれませんが、しかし、これも私たちがやっていることです。私たちは、自分を誤魔化し、それを罪とは呼ばないようにしています。だから今や、姦淫の罪は、姦淫ではないのです。

「ああ、それは.....うわ、それはひどく聞こえるから、不倫ってことにしておこう。」ああ、その方がもっともらしく、友好的に思えます。「ああ、ただの不倫ですね。」あるいは、これはどうでしょうか？ 私のお気に入り...「ほら、ちょっとした問題が発生したんだ。」”問題”？ いや、実は罪なんです。イエスは”問題”ではなく、”罪”を贖うために来られたのですから、そのように告白してください。申し訳ありませんが、それは...例えが悪いですが、わかりますよね。ほら、サタンはとても賢く、繊細で、とても知的で、戦略的なんです。サタンは、私たちにラベルを交換するように仕向けるのです。だから、もし私たちがそれを罪と見なさないなら、それほど深刻なことでもないし、大したことでもありません。となると、神の赦しの範囲から外れてしまいます。そして、罪を罪として告白しない限り、そして告白するまでは、何も出来ないのです。いいえ、その罪はすべて償われたのですから、その罪をもって十字架のもとへ来ててください。すべて贖われたのです。次に進みましょう、5番目です。

霊的に健康なクリスチャンと教会は、「満足することを学ぶ」さて、「満足」が、必ずしもこの著者の勧告のリストに含まれるレベルにはないと思われれます。さて、「満足」が、必ずしもこの著者の勧告のリストに含まれるレベルにはないと思われれます。しかし、お金への愛を理由に、金銭的に不正を行う傾向があることを考えれば、これは納得がいくことです。お付き合いください。使徒パウロがテモテに宛てた最初の手紙の6章は、おそらく聖書の中で最も間違っ引用されている箇所です。お金が諸悪の根源ではありません。お金は中立的なもので、そのお金を使って何をするかで、不道徳か道徳かが決まります。諸悪の根源はお金への愛です。そして、私はあなたに言います。使徒パウロが御霊によってテモテ

に書いているように、あなたは欲深くなり、お金を愛したことを後悔することになる、と。なぜなら、多くの苦痛が自分を刺し貫くことになるからです。(I テモテ 6:10 参照)

死に際にどれだけの人がこんな後悔をしながら生きていたでしょうか。あと少し、あと少しと全能のドル(お金)を追いかけても、満足するという甘い杯から味わうことはできなかったのです。使徒パウロは「私は、たくさん持っていたても、少ししか持っていなくても、満足することを学びました」と言いました。(ピリピ 4 : 11, 12 参照)

ここで問題なのは、もしクリスチャンやキリスト教会がこれに屈した場合、荒廃するのは本当に時間の問題であるということです。このことは、統計でも証明されていると思います。満足すること。神が与えてくださったものに満足してください。貪欲でお金が好きで、自分の身の危険を顧みずお金のことばかり考えていること、あなたはそうしているのです。今は主とともにある故ラリー・バークットは、クリスチャン・ファイナンシャル・コンセプトの創始者であり、長年にわたって私の心に残る多くの言葉を残しています。しかし、彼の言葉の中に「クリスチャンがお金をどう扱うかは、霊的なバロメーターである」というものがありました。同じことを別の言い方で言ってみましょう。クリスチャンがどのようにお金を使うか、お金とどのように付き合っているかで、その人の霊的成熟度を測ることができるのです。それが、霊的なレベルを測る目安になります。それはバロメーターであり、体温計でもあるのです。お金をどう扱うか、お金で何をするかで、彼らの体温、バイタルサインを測ることができるのです。私はそれを... ところで、ここでお金の話をするのは、神の御言葉がお金について語られている時だけです。いいですか? オンラインでご覧になっている方、特に初めての方へ。どうか、まず知っていただきたいのは、ここでは献金を受け取りません。それは何も悪いことではありませんよ。奥の壁にいくつか箱があるのですが、お気づきでしょうか? 私が初めてここに来て、この教会を始めたとき... 繰り返しますが、献金を受けることは悪いことではありません。しかし私は、神が私たちのあらゆる必要を金銭的に満たしてくださると決断しただけなのです。多くの説教壇や教会で悪用されてきたことが、私はただ不快なのです。最初の 20 分間はお金が必要だと言い、その後、音楽が演奏され...とにかく、ごめんなさい、ここまで突っ込むつもりはなかったんです。しかし、私は...とにかく...あなたがそこに座っていると、まるで誰かがあなたを見ているようで、(献金箱に)何かを入れた方がいいんじゃないかと思ってしまうのです。そして、それ(献金箱)をまた回すんですね。「おい、何も入れてないじゃないか。」「ダメだよ、神は喜んでに与える人を愛してくださるのです。」という感じですね。私たちは一度も、何も欲しがったことはありません。教会として必要なものはすべて神が用意してくださいました。この建物は、その奇跡の証です。でも、私はこう思ったことがありました。「主よ、あなたは問題を抱えています。もうお金もないですし、改修もたくさんしないとイケません。」神は「心配ない、君を試しているのだ」と仰ってくれました。「いや、神よ! 私はもうこの試験には合格したと思っています。」私は再試験することになりました。再試験は嫌じゃないですか? それは、信仰というものに関係しています。金曜日の朝のミーティングは忘れられません。なんと...、私たちは折りたたみ式のテーブルを用意して、そこに座ったのです。エアコンはまだなく、とても暑く、窓を開けて、貿易風が吹くことを祈ります。ここにはすべての書類があり、机の上に広がっています。そして、この大きな数字、巨大な数字を見えています。そして「おお、神よ、あなたは何をなさろうとしているのですか? 神よ、経済的な”問題”を抱えているのですよ。」ここでは経済的な”問題”です。私はあなたに言います。主はいつも、いつも、いつも備えてくださいます。そして、主は決して止めませんでした。満足することを学び

ましょう。この話はまた後ほど。

6 節。霊的に健康なクリスチャンは、「恐れに満たされない」この著者が強調する強さは、一読しただけではわからないと思います。それは、彼が「神が備えてくださるから恐れるな」という言葉で表現しているからです。主は決してあなたを離れず、見捨てません。ヘブライ人への手紙 13 章 6 節は、こんにちの私たちのためにあるのだと、私はあえて言いたいのです。なぜなら、ヘブル人への手紙の著者は、人があなたがたにできることを恐れるなど強調しているのです。ええ、人はあなたの雇用を脅かすことができるかもしれません。ええ、人はこれを要求したり、あれを制限したり、これを行うことができるかもしれません。しかし、神がそれを握っておられます。あなたは何も恐れることはありません。そして実際に、「確信をもって言える」と言っています。それは、かなり強いですね。繰り返しますが、彼がこのことを強調する強さは、「恐れるな、わかるだろう...？人が私に何ができるだろうか...」というような、あやふやで暫定的なものではありません。いいえ、ここには聖なる確信があるのです！「どうやら、あなたは私の父が誰なのか知らないようだね！あなたは相手を間違えちゃったね！なんだ、脅すつもりかい？あなたに何をされても、私は恐れなから！人間に何をされても、私は恐れなから！」私は怒っていませんよ。怒っているのかもしれないけど、わかりません。もしそうなら、それが正しい怒りでないなら、悔い改めなければなりません。しかし、興味深いことにイエスは、「からだを殺す人間を恐れるな」と仰られるのです。それって、彼らが...すみません。

「たましいを永遠に地獄に置くことのできる方を恐れなさい。」(マタイ 10:28 参照)

正しい言い方を探していただければと思いますが、基本的には次のような内容です。「人を恐れるなら、神を畏れていない。」そして、「神を畏れるなら、人を恐れることはない。」もし、あなたが神を喜ばせるために生きていて、人を喜ばせる者でないならば、何も心配することはありません。神を畏れれば、何も恐れることはありません。人ではなく、神を畏れよ。人のすることを恐れてはいけません。確信を持って、聖別された大胆さ、聖なる大胆さと言えるでしょう。「主は私の助け手であり、決して私を離れず、見捨てられません！主は、私が必要とするものは何でも、必ず与えてくださるのです。」神が祈りに答えてくださるのは嬉しいですね？あなたは「おお、神よ、素晴らしすぎます」と思います。神が「わかっている」と仰っているようなものです。「神よ、十分すぎます。」「わかっている」「神よ、私はこんなこと頼んでさえいません」「わかっている。子どもを甘やかすのが好きなんだよ」私たちはどうですか？さあ、正直になりましょう。皆さん、子どもたちを祝福するのが大好きですよ？皆さんは堕落した、罪深き者ですよ！あなたの天の父はどれほどでしょうか？ああ、主は自分の子どもたちを祝福することを喜ばれるのです。私たちの子どもがまだ小さかった頃、私たちは時々、子どもを座らせて、彼らが思っているのとは逆に、母親や私は朝起きて、まず「今日はどんなふう子どもをしつけようか」と考えることはないということを思い出さなければならませんでした。いいえ、逆です。「今日はどうやって子どもたちを祝福しようか。ああ、彼らをとても愛しています。」私たちの天の父はどれほどでしょうか？そんな風に考えたことはありませんか？あなたが朝起きたら、神はすでにあなたの一日をどう祝福しようかを考えておられるということ？あなたは日常的に神の善意を期待していますか？「今日は神が何をしてくさるのかな～？」「何かサプライズがあるのかな～？」子どもはサプライズが大好きです。「ねえ、サプライズがあるよ」「そうなの？何？」「まあ、サプライズにならないから言えないんだけどね」「いやだ、ヒントだけちょうだい」「ダメ、サプライズだもの！」そして、驚きの声を上げます。「ワオ！」と。私たちの天の父はどれほどでしょうか？あなたは確信

を持って言えるのです。

最後に7節。靈的に健康なクリスチャン、靈的に健康な教会は、「指導者たちの模範に倣う。」

これは興味深いです。著者は17節で、指導的立場にある人々、牧師、指導者、長老について説明しようとしています。私は、教会の権威と牧師を尊重することについて、24週シリーズでやる予定です。冗談です。そんなことしません。(笑)しかし、ここでは、そのような指導者や模範を見ることに重点を置いています。ヘブル人への手紙の著者は、神の御言葉を語り、教えた人々のことを注意深く明記しています。これらの人々は、教師、牧師、指導者、長老たちです。しかし、ただ見るだけでなく、その人の人生の實りを考えてみてください。そして、彼らの人生の實りを考えるだけでなく、それに倣うことです。使徒パウロがこう言ったように、「私がキリストに従うように、私に従ってください」

「私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。」(Iコリント 11:1)

パウロは、神に従う者として模範となる人物でした。若い方々は、そのような神に従う人を模範として見る必要があります。ここに、この男性がいて...ところで、そういう男性は何かが違うと思いませんか？そして、それは女性にも当てはまります。このような信仰の男性や女性、神に従う男性や女性を見たことがありますか？彼らの人生の實りを見てください。ちなみに、彼らは楽な生活をしているわけではありません。実は、ほとんどの場合、彼らの方が困難な状況なのです。しかし、彼らがどのように持ちこたえ、強く立ち、揺るぎなく、忍耐強く耐えているかを見てください。ヨハネの黙示録3章のフィラデルフィアの教会、すなわち兄弟愛の教会に対して、そのような話をしました。彼らは、忍耐強く耐えなさいという命令に従ったのです。これがその模範です。あなたが今経験していることに、彼らがどう対処したかを見てください。彼らの人生の實りを見てください。そして彼らを倣い、彼らのすることをしてください。それがあなたの模範です。彼らの人生の實りを見てください。彼らがどれほど健康であるか、どれほど靈的に健康であるかを見てください。そうそう、彼らは自分が受けている試練と同じかそれ以上の試練を受けているのに、何か不動のものになっているのです。彼らは脱線しません。倒れません。揺るぎません。私は、使徒パウロが、確か使徒の働き20章で言った言葉が大好きです。彼はこう言っています...私はただ...、聖書を読んでいるとき、ただ読んでいるだけでは、ページの上の言葉でしかないことがありますよね。パウロが語ったとき、彼はうなり声だったのだろうかと思うのです。なぜなら、何を言うかではなく、どう言うかですから。使徒パウロがうなるような声で言うのが目に浮かびます。「何も私を動かさない！」そう、そういうことなのです。私たちが話しているのは使徒パウロのことです。何も私を揺れ動かさない。ああ、もし動かされるべき人がいるとすれば、それはパウロだったはずですよ。そのリストをご覧ください。ああ、彼は聖霊によってコリント教会にリストを示しています。(IIコリント 11:23-28 参照)

私はリストの最初のものを超えられませんでした。つまり、殴られたり、鞭打たれたりしたのですか？3度もですか？私は1回で...一度の「39の鞭」ではなく。39は40-1です。1回の鞭打ちで... (痛みで泣き叫ぶ) 私はアウトです。そんなの耐えられません。3度もです！難破船はどうですか？お聞きください、私たちは過去に読んで、読み返して、そして、ただ読み進めるだけなのです。難破。この人は何回、難破したのでしょうか？この人は何回、石を投げられたのでしょうか？そういう話ではないのです。つまり、大きな岩や石を投げつけて、その人が潰れたり内出血で死んだりするまで投げつけるのです。石を投げて殺してしまうのです。なんて恐ろしい死に方でしょう。そして、彼らはパウロにもそれをしたのです。実際、彼を見殺しにしたのです。死んだと思っていたのです。

「家に帰って昼飯を食べよう。昼飯は何だ？」リステラの郊外で。(使徒の働き 14:19-20) 実際に死んで、その時に第三の天に上げられ、神が、待ち受ける栄光をパウロに見せられたという説もあります。そして 14 年間、使徒パウロはそのことについて一言も口にしていません。そして最後に、彼はそれを三人称で語り、このような言葉で表現しています。「私は本当に頭でっかちになって、本当に誇りを持って、天に上げられたことについて多くの本を書くことができただろう。講演旅行にも行っただろう。」今は自分のことを話しているのであって、明らかにパウロではありません。講演会に出て、「第三の天に上げられ、あなたが話すこともできないようなことを見せられたのだ」では、神は何をされたのでしょうか。パウロを謙虚にさせるために、肉体にとげを与え、謙虚にされたのです。(Ⅱコリント 12 参照) 私たちが話しているのはパウロのことです。彼が経験したことを想像できますか？ 彼の人生の裏を見てください。人生の終わりです。彼が聖霊によってテモテに書いた最後の言葉は、基本的に「時間の問題だ」というものでした。彼はそれを知っていたのです。私は、その時が来たら、主はそれを人々に明らかにする方法をお持ちだと確信しています。パウロはそれが時間の問題であることを知っていて、その通りになったのだと思います。彼はあの冷たくて暗い地下牢で、24 時間、週 7 日、看守に鎖で繋がれているのです。そして、最後の言葉として、テモテにこう言っています。「私はやり遂げた。私は勇敢に戦った。」彼は、私はレースを走ったとは言わず、「レースを走り終えた」と言っているのです。(Ⅱテモテ 4:7 参照)

「そして今...ハッハッハ!...」その唸りが聞こえてきます。「あとは義の冠が私を待ち受けています。私だけではなく、主の現れを待ち望むすべての人に。」(Ⅱテモテ 4:8 参照)

それが私たちです！ それは私たちのことです！ おお、この人になら、従っていきます。私が倣うことのできる模範です。これが裏のある人生であり、信仰の人生なのです。この人が、主イエス・キリストに完全に身を委ね、イエスに仕える生き方とはどういうことかを示す模範であり、手本となる人です。お立ちください。賛美チームは上がってください。これは、…主は私の心をご存じですが、私はただ、最善を尽くそうと努めました。しかし、この箇所のように、あまりにも多くのことが書かれているので、私はただ、聖霊が次のステップへと導いてくださるように求めました。私は最善を尽くしました、あとは主がなさってくださいるはずです。なぜなら、私たちは皆、ここを離れがちだからです。ヤコブが繰り返し言っているように、私たちは御言葉を読みますが、鏡で自分を見てから立ち去り、自分がどう見えるかを忘れてしまう人のようなものです。(ヤコブ 1:23, 24)

それは、神の御言葉が鏡のようなもので、神の完全な律法が鏡のようなものだからです。ちなみに、神の御言葉という鏡はまさに、私たちのありのままの姿を見せてくれます。「...うわっ！」そして、鏡を見るとどうなるのでしょうか？ 私が鏡を見るとどうなるかは言いませんが。もちろん、「主よ、早く来てください！」といつも祈っています。そして、本当に外側の私は日々衰えていきますが、内側の私は日々新しくなっていくのです。しかし、私たちは鏡を見て何をするのでしょうか？ 変えるべきものが見えてきて、それに対して何かをするのです。つまり、あるはずのないところに髪の毛があったり、昔あったところに髪の毛がなかったりするのです。これを剃って、それを梳いて、これを磨いて、これを洗わなければいけません。しかし、私たちは霊的な衛生面に関しては、それができていません。あなたは鏡の中の自分を見て、「ああ、やらなきゃ...」と思っています。今見たものをどうにかしたい、それは良くないことで、これでは仕事にならないから。それは、単に神の御言葉を聞くだけではなく、神の御言葉を実行する者と呼ばれるものです。繰り返しになりますが、私は最善を尽くしました。ここから

先は、聖霊がやっけてくださることです。しかし、私たちはこれらのほんの一握りを見ただけで、これらのうちの1つ、1つだけでも十分なのです。そして、私の祈りは、私自身を含め、私たち全員が、神に心の奥深くに自由に入っけていただき、神が私たちの人生に住み着いてくださり、霊的に不健康な原因を取り除いてくださることです。これを使うのは申し訳ないのですが、最後に、それで締めくくります。しかし、癌は体から切り離さないといけないんですよね。そうしないと、死んでしまいます。だから外科医は、物理的な意味での転移が起こる前に、その腫瘍を切っけて、取り除かなければならないのです。では、霊的な意味ではさらにそうでしょう。骨と骨髄、たましいと霊の間を外科的に切り裂く、神の両刃の剣の鋭さ。そして、私たちの生活の中で、霊的な意味で病気を引き起こしているものを切り捨てるのです。取り除いてください。切っけてください。主よ。でも、痛いのは苦手なので、少し麻酔をしてもらえますか？ 早く取り除いてください。主よ。それが私の病気の原因なのです。だから、霊的に不健康なんです。健康になりたいのです。祈りましょう。

天の父よ、感謝します。主よ、今一度、あなただけがお出来になるように、いつも忠実であられるように、私たちが見たり読んだり聞いたりしたことを受け止め、主よ、今一度、あなただけがお出来になるように、いつも忠実であられるように、私たちが見たり読んだり聞いたりしたことを受け止め、そして、そのプロセスを始めてください。困難で退屈なものであっても、私たちの生活に実際に適用することで、実践的で、現実的なものにしていただけませんか？ そして、そのプロセスを始めてください。困難で退屈なものであっても、私たちの生活に実際に適用することで、実践的で、現実的なものにしていただけませんか？ 不必要に、霊的に不健康になりたい人は、ここには一人もいないと思うからです。ですから主よ、もし私たちに、霊的に不健康の原因となっているものがあれば、どうか、どうかそれを取り除いてください。そして、主よ、あなたがそうしてくださること、赦してくださり、清めてくださることを感謝します。私達は健康でありたいのです。主よ、あなたに感謝します。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7